



6月の園だより

令和8年5月29日

杉並区立西荻北子供園

園長 須田 なぎさ

共通体験から広がる遊び

園長 須田 なぎさ

気温の変動が激しく、「何を着たら気持ちよく過ごせるか？」悩む日々が続いています。そのような中でも、子どもたちは色水遊びや裸足で砂遊びを楽しみながら、水の心地よさに触れ、来る夏の気配を感じ取っています。

年長ぞう組は、5月13日に電車に乗り、井の頭自然文化園へ遠足に出かけました。スポーツランドでは新幹線やスペースシャトル、メリーゴーラウンドに乗って楽しみ、動物園ではリス、フクロウ、ヤマアラシ、モルモットの赤ちゃんなどの動物、水生園では水辺の生き物をじっくり見ていました。

翌日には、早速「メリーゴーラウンドを作りたい」「車を作りたい」と“やりたい”気持ちがあふれ出しました。タイヤ付きの遊具を用いることで、子どもたちは遠足での楽しかった経験を思い出しながら、友達と協力して形にしていきました。「馬はようになっていたっけ？」「飾りがついてたよね」と話し、写真を手掛かりに作る姿がありました。また、別の子どもは印象に残った動物を思い出し、保育室の材料を使って作り始めました。今回は、長くて硬いトゲを揺らしながら歩いていたヤマアラシが特に心に残ったようです。それをきっかけに、ヘビやリスを作る子も増えていきました。

乗り物や動物がそろそろ、「もっと楽しい場ができそうだね」と先生が投げかけ、ジュース、アイス、かき氷、ハンバーガーなどの食べ物コーナーも加わり、ぞう組全員で「ぞう組ランド」をつくることになりました。保育参観では、保護者の皆様にも一緒に遊んでいただき、ありがとうございました。

参観日2日目には、年少うさぎ組と年中くま組も誘うと遊びに来てくれました。最初は緊張していました

が、次第に笑顔で好きなコーナーを選んで楽しんでいました。

ぞう組の子どもたちは、自分たちのつくった「ぞう組ランド」にお客さんが来てくれたことで、案内や売り込みが少しずつ上手になっていきました。何より、お客さんが楽しんでくれていることが伝わり、大きな自信につながったことと思います。

ぞう組ランドで遊ぶという共通体験をしたくま組やうさぎ組も、新しい「やってみたい」という思いが芽生え、遊びの中でアイス屋さん、ジュース屋さん、ピザ屋さんごっこが始まっています。

子どもたちの遊びは、体験をもとに友達と関わりながら広がり、深まっています。その過程において、幼児期に育てたい大切な力が育まれています。「やってみたい」という意欲、自分の感じたことや考えたことを言葉や形で表現する力、友達と相談しながら形にしていく協同性、工夫したり試したりする粘り強さ、——これらはすべて、遊びの中で育つ力です。

また、遠足という共通体験から「ぞう組ランド」が生まれ、さらにその体験が他の学年へと広がっていったように、幼児期の学びは“つながり”の中で豊かになります。自分の思いを実現しようとする主体性、仲間と協力してつくり上げる協同性、経験を次の遊びへと発展させる創造性——こうした資質・能力が、日々の遊びの中で確かに培われていることを感じます。

子どもたちがこれからも仲間とともに心を動かし、思いを形にしながら、さらに未来につながる力をつけていくことができるように、私たちは環境を整えて丁寧を支えてまいります。

